

〔参考二〕 昭和二十三年三月 現代かなづかいの
文部省

要領

・ゴシックはとくに注意すべき点を示す。
・括弧内の漢字には当用漢字表以外のものも使っている。

「現代かなづかい」まえがき

- 一、このかなづかいは、大体、現代語音にもとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したものである。
- 一、このかなづかいは、主として現代文のうち口語体のものに適用する。

一、原文のかなづかいによる必要のあるもの、またはこれを変更しがたいものは除く。

原則

第一類

- 1. 旧かなづかいのぬ、烈、をは、今後い、え、おと書く。

ただし、助詞「を」は、もとのままとする。

例 あい(藍) いる(居る) すいどう(水道) こえ(声)

うる(植ゑる) こうえん(公園) とお(十)

あおい(青い) おんど(温度)

▼本を読む 字を書く

- 2. 旧かなづかいのくわ、ぐわは、今後か、がと書く。

例 かがく(科学) かし(菓子) ゆかい(愉快)

がいこく(外国) いちがつ(一月)

- 3. 旧かなづかいのぢ、づは、今後じ、ずと書く。

ただし、(イ)二語の連合によって生じたぢ、づは、もとのままとする。

例 ふじ(藤) はじる(恥ぢる) じ(痔) じしん(地震)

じょせい(女性) みず(水) ゆずる(譲る)

まず(先づ) ずつ(宛) なかんずく(就中)

さかずき(杯) きずく(築く) だいず(大豆)

ずが(図画)

▼(イ)はなぢ(鼻血) もらいぢち(もらひ乳)

ひぢりめん(緋縮緬) ちかぢか(近々)

いれぢえ(入知恵) ちゃのみぢやわん(茶飲茶碗)

みそづけ(味噌漬) みかづき(三日月)

ひきづな(引綱) つねづね(常々)

ぢから(力) ぢょうちん(提灯) ぢょうし

(調子) づえ(杖) づか(塚・束・柄)

づかい(使) づかえ(仕) づかみ(掴み)

づかれ(疲れ) づき(付・搦) づく(付く)

づくえ(机) づくり(作・造) づくし(尽し)

づけ(付) づた(鳶) づたい(伝ひ)

づち(槌) づつ(筒) づて(伝手)

づつみ(包) づつみ(鼓) づとめ(勤)

一づま(妻・棲) 一づまる(詰まる) 一づみ(積)

一づめ(爪・詰) 一づよい(強い) 一づら(面)

一づらい(辛い) 一づり(釣) 一づる(鶴・弦・蔓)

一づれ(連)

▼(ロ)ちぢむ(縮む) ちぢらす(縮らす) つづみ(鼓)

つづら(葛籠) つづく(続く) つづる(綴る)

4. ワ、イ、ウ、エ、オに発音される旧かなづかいのは、ひ、ふ、へ、ほは、今後わ、い、う、え、おと書く。

ただし、助詞「へ」は、もとのままに書くことを本則とする。

例 かわ(川) あらわない(洗はない) すなわち(則ち)

たい(鯛) おもいます(思ひます) ついに(遂に)

いう(言ふ) あやうい(危い) まえ(前)

すくえ(救へ) さえ(さへ) かお(顔) なお(尚・猶)

こおり(氷) とおる(通る) おおい(多い)

おおきい(大きい) とおい(遠い) おおう(覆ふ)

おおかみ(狼) とどこおる(滞る) おおむね(概ね)

▼わたくしは では には とは のは からは

よりは のでは こそは までは ばかりは だけは

ほどは ぐらいは などは あるいは もしくは

おそろくは ねがわくは おしむらくは または

さては いずれは ついては

▼京都へ帰る ……さんへ

5. オに発音されるふは、今後おと書く。

例 あおい(葵) あおぐ(仰ぐ) あおる(煽る)

たおす(倒す)

第二類

1. エの長音は、ゆうと書く。

例 ゆうがた(夕方) ゆうじん(友人) りゆう(理由)

「備考」 「言ふ」は「いう」と書き、「ゆう」とは書かない。

2. エ列の長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例 ええ(応答の語) ねえさん(姉さん)

3. オ列の長音は、「おう」「こう」「そう」「とう」のように、オ列のかなにりをつけて書くことを本則とする。

例 おうじ(王子) おうぎ(扇) おうみ(近江)

かおう(買はう) こうべ(神戸) こう(斯う)

なごう(長う) いちごう(一合) はなそう(話さう)

そう(然う) そうろう(候々) ぞうきん(雑巾)

とうげ(峠) たとう(立たう) とう(塔)

きのう(昨日) ほうき(箒) ほうび(褒美)

りっぽう(立法) あそぼう(遊ばう) もうす(申す)

ようやく(漸く) たいよう(太陽) かえろう(帰らう)

ろうそく(蠟燭)

〔備考〕 「多い」「大きい」「氷る」「通る」「遠い」などは「おお

い」「おおきい」「こおる」「とおる」「とおい」「と書き」「おう

い」「おうきい」「こうる」「とうる」「とうい」「とは書かない。

第三類

ウ列拗音の長音は、「きゅう」「しゅう」「ちゅう」「にゅう」の
ようにウ列拗音のかなに「う」をつけて書く。

例 おおきゅう(大きゅう) きゅうよ(給与)

あたらしゅう(新しゅう) きゅうり(胡瓜)

きゅうしゅう(九州) じゅう(十) うちゅう(宇宙)

にゅうがく(入学) ひゅうが(日向) びゅう(誤謬)

りゅうこう(流行)

第四類

オ列拗音の長音は、「きょう」「しょう」「ちよう」「にょう」の
ように、オ列拗音のかなに「う」をつけて書くことを本則と
する。

例 とうきょう(東京) きょう(今日) こんぎょう(今晚)

しょうねん(少年) まいりましゅう(参りませう)

よいでしゅう(よいでせう) じょうず(上手)

ちよう(蝶) にょう(尿) ひょう(豹) びょう(鋏)

みょうにち(明日) みょうじ(苗字) りょうり(料理)

りょう(獵)

〔注意〕

1. 「クワ・カ」「グワ・ガ」「および」「ヂ・ジ」「ツ・ズ」をいい分
けている地方に限り、これを書き分けてもさしつかえない。
2. 拗音をあらわす「や」「ゆ」「よ」は、なるべく右下に小さ
く書く。
3. 促音をあらわす「つ」は、なるべく右下に小さく書く。